

第47号

図書館報



津山工業高等専門学校

連携10周年

1月20日(土)に、約150人が参加し、美作大学美作学園創立100周年記念館で三館連携10周年記念事業が開催されました。

2008年4月に津山市立図書館、美作大学図書館、津山高専図書館の三館は利用者の教育、学術及び文化の発展に資することを目的に、相互協定ができ、この三館の協力体制のもとで津山市内六高校との協定も締結されました。この協定により、市立図書館の本や資料を各図書館で受け取ることができ、また返却も市立図書館に行かなくてもできるようになり、大変便利になりました。



図書館長
原田 寛治

三館と市内高校図書館の4つの連携です。私は長年陸上競技部の顧問をしています。陸上競技で一番ハラハラ、ドキドキする種目は4×100mリレー、4継です。10年前は短距離ではメダルは不可能と言われていました。しかし、科学的データをもとに地道に記録向上を探求したことで、一昨年のリオデジャネイロオリンピックでは4継で銀メダルを獲得しました。昨年、東洋大学の桐生選手が10秒の壁を破ったことにより、2020年の東京オリンピックでは4継での金メダルも可能だと言われ始めました。

図書館とは関係ないことと言われるかもしれませんが、4継はお互いの信頼関係が一番順位に影響する種目です。走力はもちろんですが、渡す走者と受け取る走者の信頼関係、そして走者をサポートするスタッフも重要な要素です。図書館の連携も同じです。

4×100mリレーのような連携、津山市(公共施設)、美作大学(私学)、市内高校、津山高専(国立)による4継がここ津山で実施され10年目を迎えています。この連携は図書館関係者によると、津山でしかないシステム「津山モデル」だそうです。「津山モデル」が、さらに継続され発展することを感じた一日でした。

— CONTENTS —

先生お薦めの本	3
交流会／スタンプラリー	6
三館連携10周年記念事業	7
図書委員活動報告	8
ブックハンティング新刊紹介	10
校内読書感想文コンクール	11
ご存知ですか、図書館の使い方	14

先生お薦めの本

先生から学生へのお薦めの本を紹介します



先進科学系 守友 博紀

『ぼくは勉強ができない』

山田 詠美：著（新潮社）

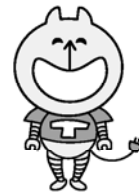
さて、「おススメの本」ということで、何を紹介すべきか大変迷いました。私がこれまで読んできた学術書の中にも名著はたくさんあり、本来はそういった本を紹介すべきなのかな、と考えました。しかし、あっという間の青春時代、そんな多感な時期にはぜひ「物語の世界」にも浸ってほしいと思い、この本を選んだ次第です。

主人公は17歳の時田秀美くん。サッカーが大好きで、とっても女性によくもてる。なんとなんと、ショットバーで働いている年上の桃子さんとお付き合い中！秀美くんが学校を中心として、ときには楽しく、ときには悩み、活躍していく青春小説です。

私がこの本を手にしたのは高校生のときでした。裏表紙にあった、この本を端的に表した一言“ぼくは確かに成績が悪いよ。でも、勉強よりも素敵で大切なことがいっぱいあると思うんだ——。”これに心を動かされました。授業を受けて、部活に行って…を繰り返す毎日だった高校生生活。そんな自分にとって、秀美くんの生き方は憧れであり、とても刺激的だったのを覚えています。様々な未来が約束されている皆さんにとって、学校の勉強だけがすべてではない、この本はそんなことを教えてくれると思います。学校になんとか居心地の悪さを感じている人、勉強に意味があるのかな？と悩んでいる人、そんな人はこの本をぜひ

手に取っていただきたいと思います。読んだ人は、ぜひ感想を聞かせてくださいね。

※学術書からは、「分子統計熱力学入門（John H. Knox）」、「Modern Molecular Photochemistry（Nicholas J. Turro）」、「物性化学（松永義夫）」あたりを推薦します。この辺の話は、授業にでもしましょうかね。



機械システム系 住田 光子

『ワン・デイ（上・下）』

デイヴィッド・ニコルズ：著

川副 智子：訳（早川書房）

〔原作〕Nicholls, David. *One Day*. London: Hodder, 2010.

Nicholls, David. *One Day*. Retold by F. H. Cornish. Oxford: Macmillan, 2012.

ロンドン在住のデイヴィッド・ニコルズの小説です。発表の翌年、2010年、ブリティッシュ・ブック・アワード（Galaxy British Book Awards）を受賞し、40カ国語に翻訳されています。翻訳版も楽しいのですが、マクミラン社の、やさしい英語のリーダーズ（85頁）もおすすめです。

男女の友情は、恋愛を越えられるのでしょうか。舞台は、エディンバラ、ロンドンやパリ。1988年に始まります。19年間、ある男女の、7月15日の

1日だけを辿ります。エディンバラ大学の卒業式の後、憧れの男の子と初めて話した、生真面目なエマ。一方、溺愛され育ったデクスター。近年では文通や交換日記を交わすのは稀少ですが、当時ふたりの連絡手段は、手紙や電話です。なかには、投函されなかった手紙も物語にはおさめられていて、ユニークです。インドのタージ・マハルへ誘うロマンティックな手紙は、エマが受け取ったら喜ぶのに、赤の他人の本にはさまれている始末です。80年代後半は、ラインや携帯電話がなく、すぐには気持ちが伝えられない時代でした。それでも友情は固く、ふたりは19年間もつながっています。

小説はヒットし、映画にもなりました。時を遡るというエピローグに感涙した私は、エマの住んでいた通り（ランケイラー・ストリート）を探しに夏の旅に出ました。スコットランドはエディンバラ大学からほどなく、ゴミ箱が並ぶさびれた通りに、“vacant”と書かれた石造りの集合住宅がありました。エマのフラットを連想させます。遠くにそびえるのは、アーサーズ・シート<アーサー王の玉座>の断崖。雄大で、ため息が出ます。かつてデイヴィッド・ニコルズもエディンバラに滞在しています。デクスターはアーサーズ・シートへ行ったことがないと打ち明けますが、旧市街に臨む、風情豊かな丘陵（山）ですから、山登りが好きなエマが驚くのも無理ありません。

さて、命題に戻ります。作品を通して、男女の友情は恋愛を越えられるのではないかと感じる瞬間があります。作者は、読み手がエマとデクスターのなかに自分を見出せるのが作品のよさだと語ります。若い皆さんに手に取ってもらいたい一冊です。



情報システム系 畑 良知

『ニューロマンサー』

ウィリアム・ギブスン：著

黒丸 尚：訳（早川書房）

現代の情報化社会が行き着く一つの未来像の表現としてサイバーパンクと呼ばれるSFのサブジャンルがある。ネオン街に立ち込める退廃的な陰鬱さや硝煙の匂い、かと思えば寒々しい清潔感や秩序だった無機質さ、といった極端な対比がなされる超高度に情報化した世界を舞台に、反社会的な思想・モラルを足した世界観は、映画ブレードランナーや攻殻機動隊などで触れたことがある人も居るのではなかろうか。しかしSF好きでない限り、こうした作品の元になったであろうSF小説たちを読む機会はなかなかない。

ウィリアム・ギブスンが1984年に発表したニューロマンサーはサイバーパンクの代表作として名高い。近未来、千葉の片隅にあるアウトローな夜^{ナイト}の街^{シティ}を皮切りに、落ちぶれた^{サイバースペース}電脳空間のカウボーイ（近未来のハッカー）が、世界を股にかけ自身に関わる陰謀を追う。

SF小説では、文章からいかにテクノロジーのヴィジュアルを想像するか、という点が1つのキモになる。こうした想像は、自身のそれまでの世界観・未来観に対する新たな刺激に繋がる。話は若干それるが、往々にして著名な技術者やCEOなどは独自の未来観を持っており、それに向かって日々思考を巡らせている。そうした観念は、若い頃のちょっとしたことへの憧憬が強く影響していると思う。つまり将来、大多数が技術者として生きていくであろう高専生にとって、SFに親しみ今のうちにテクノロジーへの考え方を育んでおくことが、今後の技術者としてのあり方へと繋がる、と声を大にして言いたい。

本著はサイバーパンクに分類される古典のなかでは、翻訳小説であることも手伝ってか文体の読

みづらさはあるものの、日本人にはおなじみの単語が小道具に関係して登場するので親近感が高く、また、現実の技術革新や近未来ガジェットのヴィジュアルイズが進んだ今となっては比較的想像しやすい。しかし、ならば凡庸かという点、未だ^{ニュー・}独創的であり、イメージは色褪せていない。幸い図書館にも蔵書としてあることだし、未来の可能性を見据えるためにも一読をおすすめする。



図書館 田中 智

『13階段』

高野 和明：著（講談社）

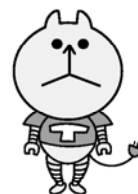
今年度、三館連携10周年記念事業が実施され、その一環として昨年12月3日（日）にビブリオバトルが開催されました。ビブリオバトルとはお気に入りの本を持ち寄って、その面白さについて5分程度で紹介しあい、どの本が一番読みたくなったかを多数決で決定する書評イベントです。中・高校生の部では津山東高校の方が優勝しましたが、その際の発表で紹介し、一番得票の多かったチャンプ本がこの『13階段』です。

本作は2001年、第47回江戸川乱歩賞を受賞した作品です。江戸川乱歩賞とは広義の推理小説を応募要件とした歴史ある文学賞です。文学賞の多くはまだあまり売れていない作家が応募するもので、この江戸川乱歩賞も推理小説作家の登竜門とみなされています。ですから、文学賞受賞作といって期待して読んでも、著名作家による評価の高い作品に比べると期待外れに感じてしまうことも多いのですが、この『13階段』は内容・構成も充実し、推理小説としても楽しめる、歴代の江戸川乱歩賞受賞作の中でも優れた作品だと思います。実際、

当時の江戸川乱歩賞選考委員の作家、宮部みゆき氏は受賞作選考でも「ダントツの作品でした」と文庫本解説で述べており、選考委員の全会一致で受賞が決まったそうです。

傷害致死罪で刑務所に服役した三上は、仮釈放で出所した際、退職予定の刑務官、南郷より仕事を持ちかけられます。それは弁護士事務所からの依頼で、死刑囚、樹原の冤罪をはらすべく調査をする仕事でした。強盗殺人が発生した現場付近でバイク事故を起こし、発見された樹原は当時の記憶を失っており、状況証拠で死刑が確定していました。死刑執行が迫る中、樹原はふとしたきっかけでバイク事故直前に「階段」を昇っていたことを思い出します。そのわずかな手がかりを元に三上と南郷は事件を調べていきます。

本作では傷害致死罪や殺人罪という人を死に至らせてしまった罪と、死刑制度に関する非常に重いテーマが背景にあります。加害者や被害者、その家族だけでなく、法務行政に携わる刑務官・検事・保護司、それぞれの心理や葛藤が的確に描かれており、読むと非常に共感できるところも多いと思います。臨場感を支える文章構成も緻密で、刑務所や死刑制度に関する法令や現場の様子が非常に詳細に書かれており、読むだけで一定の知識を得ることができます。推理小説としても大変面白く、最後まで予想不可能ですが、それでも過度に奇形的でない、筋が通った推理内容になっています。



交流会が 開催されました

平成29年6月24日(土)に本校で、津山高等学校
図書部、美作大学図書館ボランティア、本校図書



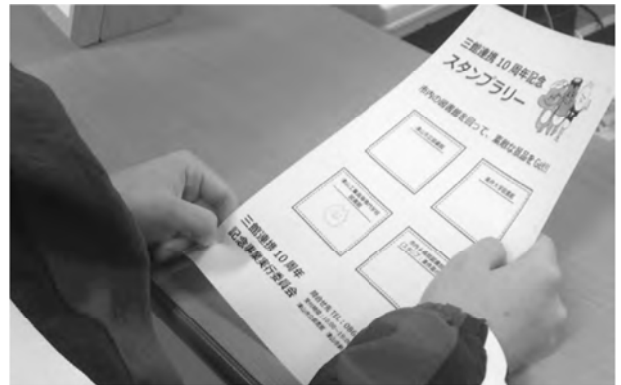
委員の交流会が開催されました。15名(学生11名、
教職員4名)が参加し、自己紹介、それぞれの活
動報告、そして本校の図書館見学、レクリエーシ
ョンが行われました。

レクリエーションでは、全員混ぜこぜのチーム
を作り、チーム対抗でゲームをして競いました。
ゲームでは、図書館の本を利用したものや、オス
スメの本をチームで一冊みんなに紹介するものな
どがあり、とても盛り上がりました。ゲームに勝
ったチームには、てくにゃんのクリアファイルや
トートバックなどの景品が贈られました。最初は
みんなあまり話せていませんでしたが、徐々に距
離も縮まり、和気あいあいとした雰囲気、情報
交換・意見交換を行うことができました。

来年度以降も同様の機会があれば、図書委員に
なった学生のみなさんはぜひ参加してみてください!!

スタンプラリーに 参加しました

平成29年11月20日(月)から平成30年1月19日
(土)の期間で三館連携10周年を記念し、スタンプ
ラリーが行われました。ルールは津山市立図書館、
美作大学図書館、岡山県美作高等学校図書館およ



び本校図書館を回り、それぞれのスタンプを集め
るというものです。

実際に4つの図書館を巡り、各館のスタンプを
台紙に押印しました。そして、三館連携10周年記
念式典会場で景品と交換してもらいました。今回
スタンプラリーに参加し、各館を訪れてみると同
じ図書館でもそれぞれの違いや特色があり、とて
も興味を持ちました。ぜひまた機会があれば、こ
れらの図書館を利用してみたいと思います。

三館連携10周年記念事業

津山市立図書館・美作大学図書館・津山高専図書館

1月20日(土)に美作大学美作学園創立100周年記念館5階で、三館連携10周年記念事業「地域と暮らしをおいしくする図書館」が開催され、記念式典・記念講演・パネルディスカッション・ビブリオバトル表彰式が行われました。



三館連携～10年のあゆみ～

2008年4月18日

三館（津山市立図書館・美作大学図書館・津山高専図書館）の相互協力に関する協定締結



2008年10月8日

三館と市内6高校の図書館の相互協力に関する協定締結

2008年11月3日

弥生祭に自動車文庫「ぶっくまる」が巡回
※以後毎年継続



2011年11月3日

図書館支援学生交流会開催（美作大学・津山高専・津山高校） ※以後毎年継続



2014年10月26日

第1回ビブリオバトル開催（津山市立図書館）
※以後不定期に開催



2018年1月20日

三館連携10周年記念式典開催

図書委員活動報告

図書委員は、弥生祭等催し物班、図書館利用・読書奨励活動班、ブックハンティング・交流会班、図書館報班の4班に分かれて活動しています



弥生祭等催し物班



今年の弥生祭、図書委員会では、古本市とし
おり・ブックカバー作りを行いました。今年は、
弥生祭自体に例年より多くの人に来てくださっ
たので、古本市にもたくさんの人に来てくださ
いました。特に午前は2日とも多くの人に来て、
しおりを作っていました。古本も2日で全体の
半分ほどがなくなりました。

残る本はずっと残るので、来年は学生から積
極的に古本を集めても面白いかなと思いました。
弥生祭メンバーで材料の買い出しや当日のシフ
トなど、特に大きな問題なく無事に終えること
ができたので良かったです。

(電子制御工学科4年 小川 竜世)

私たち図書館利用・読書奨励活動班は、
学生の皆さんにもっと本を読んでもらえ
るように活動しています。今年は三館連
携10周年を迎え、記念式典が行われま
した。経路案内や受付の補助、駐車場の
案内などを手伝いました。また講演やパ
ネルディスカッションがあり、とてもた
めになる話で、図書館について考えるよ
い機会になりました。三館連携10周年
記念事業ではスタンプラリーなどもあり、
少しでも楽しく利用できるよう工夫も
されており、私も図書館を積極的に利用したいと思いました。最後に、この三館の中であればどこの図書
館でも本を借りられるので、みなさんどうぞ図書館をご利用ください。

図書館利用・読書奨励活動班



(電気電子工学科4年 大嵩 竜一)

私たちブックハンティング・交流会班は、ブックハンティングと図書館交流会をメインに活動しています。

ブックハンティングとは直接書店に行き、決められた予算内で本の選定、購入をしていくことです。今回は班員とランボー先生で岡山市にある宮脇書店岡山本店に行きました。今回のブックハンティングで購入した本は図書館ブラウジングコーナーの本棚に置いていますので、機会があればぜひ手にとって読んでください。そして、次頁のブックハンティング新刊紹介のコーナーで何冊か紹介文を書いているので、それもぜひ読んでください。

ブックハンティング・交流会班



またこの班では、図書館交流会に参加させていただきました。今年度は6月に本校図書館で開催されました。津山高等学校図書部、美作大学図書館ボランティア、本校図書委員の3グループで集まって、各校の活動報告のプレゼンや図書館内の案内をしたりしました。

班長として、1年間活動しましたが楽しかったです。班員やランボー先生などたくさんの方に支えていただき、無事1年を終えることができました。本当にありがとうございました。

(機械工学科3年 森永 亮賀)

図書館報班

私たち図書館報班は、本館報の作成活動を行ってきました。掲載内容の決定、原稿の執筆依頼をメンバー全員で行いました。今年はブックハンティング・交流会班に協力していただき、新しい企画を実施しました。他の班との連携などで難しい面もありましたが、無事に完成させることができました。図書館報を



読んで、本に少しでも興味を持っていただいて、今まで以上に図書館を利用いただければと思います。

最後になりましたが、本館報の作成にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

(機械工学科4年 岡部 直人)

ブックハンティング 新刊紹介



『プロが教える鉱物・宝石のすべてがわかる本』

下林 典正、石橋 隆：監修（ナツメ社）

この本は鉱物の誕生から人口宝石の話まで載っています。オールカラーで細かい説明がされていて、とても分かりやすい本です！宝石の登場する小説と一緒に読むのもオススメです。

『人はどのように鉄を作ってきたか』

永田 和宏：著（講談社）

日本の和釘は1400年以上の年月を経ても、曲がりさえなおせば再度使えるといわれています。一方現在の鉄製法は、純度が高くても50年程度で朽ちるといわれています。現代の鉄製法と古代、前近代的鉄製法では何が違うのか？その答えは読み進めてたしかめてみてください！

『面白いほどよくわかる数学』

小宮山 博仁：著（日本文芸社）

ウォーミングアップなど様々な問題があり難しさも様々です。絵や図形で問題も分かりやすく、解答も丁寧なので、とても理解しやすい本です。

『面白いほどよくわかる物理』

長澤 光晴：著（日本文芸社）

図や絵で分かりやすい説明！たとえなどでイメージしやすくなっているので、問題を理解しやすく解きやすいです！

『生態学 基礎から保全へ』

鷺谷 いづみ：監修・編著（培風館）

地球を守るには「自然」がどんな要素から成り立っているのか、ちゃんと理解する必要があります。この本では、人類の発展による生態系への影響などが分かりやすく書かれており、これからの社会を拓いていく技術者にも読んでもらいたい本です。

『いじめからは夢を持って逃げましょう！』

長野 雅弘：著（パンローリング）

いじめは犯罪です。津山高専ではハラスメント防止の対策をしていますが、最近SNSなどで誹謗・中傷があるそうです。ほかにも知らないところでいじめがあると耳にします。今、いじめを受けていると感じている人、いじめの実態を少しでも知りたいという人は、この本を手にとってみてください。

校内読書感想文コンクール

1年生の読書感想文の中から
図書委員が優秀作品を選出しました

第1位

『ハリネズミと私』

1年1組 小橋 怜奈

皆さんは、いつ、どんな時に孤独を感じますか。この『ハリネズミの願い』は、孤独の中で必死に戦うハリネズミの心情を描いた作品です。なぜ孤独を感じてしまうのか、という問を作品を読み進めていく中で、自然と自分自身に問いかけることができます。そして、作品は私達の心の中で眠っている答えをもう一度呼び覚ましてくれます。また、その答えは読んだ人の過去の経験や考え方の違いによって、実に様々です。

私は、この作品の中のハリネズミの言動で特に印象に残っている箇所があります。まず、ひとりぼっちで孤独なハリネズミが自分の知っているどうぶつたちに手紙を書こうとしているシーンです。しかし、ハリネズミは自分の見た目や性格への自身のなさから手紙を出すことをためらってしまいます。もしこうだったら、ああだったらと考えて前に進むことができないハリネズミの姿に、中学三年生までの私の姿が重なって見えました。実は、私にも考えても仕方のないことに取りつかれ、考えることや普段の生活にその考えが影響してしまう時期がありました。そんな時にある人から言われた言葉が、この作品を読み進めていくにつれて鮮明によみがえり、涙が止まらなくなりました。その言葉を私に贈ってくれたその人のお陰で、今の私はあると改めて感じました。そして、自分と同じハリネズミに「大丈夫だよ。」と言ってあげたい、ぎゅっと抱きしめてあげたいと強く思いました。

次に、「いまはまだ。」というハリネズミの言葉が印象に残っています。このシーンでは、ハリネズミが手紙を出すことを先のばしにすることで、自分自身の心を守ろうとしている様子が読み取れます。確かに、苦しいことやつらいことは、先のばしにして逃げ出してしまいたいと思うことは当然のことです。しかし、それではいつまでもありのままの自分を理解してくれる人は現れません。そして、自分を理解してくれる人はいつだって自分の近くにいます。この本を通じて、そのことが少しでも多くの人の心に届いて欲しいと思います。

私は、今でも時々ああだったら、こうだったらと考え続けてしまうことがあります。確かに、様々な予測をたててその対処法を考えておくことで、何かハプニングが起きた時にある程度対応することができるでしょう。しかし、考えすぎてしまうと心に余裕がなくなり、何もできない状態に陥ってしまいます。まさに作品中のハリネズミは、この状態であったのではないのでしょうか。

たくさんのことを考え過ぎてしまう、ハリネズミと私。共通点はそれだけではありませんでした。ハリネズミは自分の容姿をととても気にしています。そう、自分の背中に無数に生えているハリについて。そして、私自身も自分の容姿や人格、成績全てに自信を持つことができません。しかし、私はある人のお陰で自分が短所だと思っていた面を、違う言葉に変えることで長所に変えることができるようになりました。容姿に関しては、両親から受け継いだ自分一人にしかない特別なものですし、人格に関しても、一人一人の個性を表現するためには必要不可欠です。そして、成績に関しては、たとえ他の人と比べて劣っていたとしても、自

分自身が努力を継続していくことを忘れなければ、いつの日にか目に見える形となって現れると信じています。

最後に、このハリネズミは多くのどうぶつたちの心を感じ取り、その要望全てに応えようとしている姿が物語の中から読み取れます。しかし、全ての人に自分を良く見せることはできません。ある人は、私が人間関係に悩んでいた時にこう話してくださいました。「世の中には自分に好意を抱いている人が二割、敵意を抱いている人が二割。その他の人は何とも思っていないそうですよ。」

と。ハリネズミには、まだありのままの自分を受け入れてくれるどうぶつはいません。そのような状態のことを、私達は孤独と呼びます。そして、孤独な人はとても寂しいとも言います。そんな中、ハリネズミはとても印象的な言葉を言います。それは「孤独じゃない。だって自分があるもん」という言葉です。周囲から見れば、ハリネズミはひとりぼっちで孤独などうぶつだと思います。そして、この言葉によって、ハリネズミは自分が孤独であることを認めたくないのだろうと思った人もいることでしょう。しかし私は、このハリネズミの一言は、自分自身を理解しているのは自分自身だけである、ということを伝えているのではないかと考えました。つまり、世界中の誰一人として孤独な人はいないということです。少し強引な考え方ではありますが、自分自身を肯定することはとても大切だと思いました。

つまり孤独とは、自分はひとりぼっちであるということ強く感じてしまうことであり、また、ありのままを受け入れてくれる人がいない状態のことだということです。そして、孤独だと感じないためには、誰かから手を差し伸べてもらうのをただまつだけではなく、自分から歩み寄る努力をすることが最も大切だと感じました。嫌われたらどうしようとか、周りの人から変に思われるんじゃないかなどと臆病にならず、勇気を出して最初の一步を踏み出すことが、ありのままの自分を理解してくれる人を見つけることにつながると思います。そのために私は、信頼の置ける人を見極め、自分自身のありのままの姿を見せるようにしています。また、毎日の努力を惜まず、自らが正しいと判断した道を歩むようにしています。このような一日一日の生活を積み重ねることで、少しでも理想としている人物像に近づきたいと思います。

(トーン・テレヘン／長山 さき 訳
『ハリネズミの願い』)

第2位

『博士の愛した数式』を読んで

1年3組 田中 啓介

「僕の記憶は八十分しかもたない。」

身近にこんな病気の人がいたら、私はその八十分をどう共有すべきだろうか。私は、もし自分のことを忘れられたとしても、その時間を有意義に過ごすべきだと思う。

この話は記憶障害を持っているが、忘れてはいけない大切なことは、メモに記して上着につける「博士」とその家政婦、そして彼女の息子の「ルート」の三人の話だ。家政婦が初めて博士と出会ったとき、博士がまず初めに聞いたのは彼女の名前ではなく、誕生日や靴のサイズだった。

名前より先に誕生日を聞かれると、最初はとまどってしまうだろう。私も最初はとまどってしまった。しかし、誕生日等を聞くことは八十分しか記憶がもたない博士にとって、相手のことを理解するための有力な手段なのだということがわかった。

また博士は、とても子ども思いの人でもあった。ある日、午後六時ごろに家政婦に十歳の子ども、ルートがいると分かった、夕食の準備をしていた彼女を追出すように家に向かわせ、翌日からはその子どもを博士の家に連れてくるように彼女に言いつけたのだ。「小さな子どもを一人で残して『もしも』のことがあってはいけない」というのが博士の考えだ。また、博士が散髪に行った帰り道では、幼い女の子が泣いているのを見つけると一目散にかけ寄り、なぐさめようとしたのだ。しかしその直後、女の子の母親が現れそそくさと連れ帰ってしまった。博士の身なりから、不審者だと思ってしまったに違いない。しかし、子どもが悲しむことを嫌う博士の気持ちもなんとなくわかる。私も中学校の職場体験学習で保育園に行ったときに一人の園児が泣き出してしまい、どうしてあげることもできず心苦しい思いをしてしまったことがあるからだ。

しかしそんな博士の記憶できる時間が徐々に縮まっていく。その最初のきっかけは、家政婦と歯医者に行ったときのことで、そもそも博士は人前に出ることが苦手なため、外出するときにはいつも家政婦と一緒にだった。しかし、治療のショックからか無口になり、家政婦を無視して家に帰ってしまった。その後家政婦が博士の家に着くと、博士は帰ってきた彼女に初めて会ったときにした誕生日等の質問をしたのだった。歯医者

に行ってから帰ってくるまでにかかった時間は七十分で、八十分から十分短くなったのだ。

これ以降も、博士の記憶時間は博士がショックを受けるたびにどんどん短くなっていった。そして、ルートの誕生日と博士の数学専門誌の懸賞当選のダブルパーティーを行った夜を境に、ついには一分も記憶でなくなってしまった。

しかし記憶ができなくなっても子ども思いという面は変わりしなかった。ルートが中学生や高校生になっても、会うたびにキャッチボール等をして、一緒に時間を過ごしていた。

私はこの本を読んで、子どもを気遣うことの大切さや、障害を持つ人への対応の仕方について、今一度考えさせられた。この話に出てくる博士のような記憶が短時間しかもたないという障害を持つ人も実際にいるし、高齢になると誰でも記憶力はおとろえるので、そのような方々とのように接していけばいいのかをしっかりと考えていきたいと思った。

(小川 洋子『博士の愛した数式』)

第3位

『高瀬舟』

1年1組 乾 迪保

「高瀬舟は京都の高瀬川を上下する小舟である」

この一文から始まる『高瀬舟』は、喜助と庄兵衛の会話によって話が進んでいる。この物語ではその会話を通して安楽死という問題について疑問を投げかけ、考えさせてくれる。

「弟殺し」の罪で島流しを言いわたされたこの話の主人公、喜助は同心の庄兵衛に舟の中、「弟殺し」をすることになった経緯を語る。喜助とその弟は幼い時に両親を亡くし、二人で支え合いながら生きてきた。しかし、弟が病で働けなくなってしまう。弟は兄の喜助に一人で稼がせることになってしまうことを心苦しく思い、自殺を決意。そして首にかみそりが刺さったままなかなか死ぬことができず苦しんでいるところに喜助が帰宅し、弟の頼みを聞いてかみそりを抜き、弟を死なせた。そこを人に見られ、奉行所へ連れていかれたのだ。

確かに、人殺しには変わらない。だが、もし喜助がかみそりを抜かなかったら。本文にもある通り、弟は喜助がかみそりを抜かなかったとしてもいずれ死んで

しまっていた。喜助は弟の頼みに答え、なかなか死ねずに苦しんでいた弟を苦しみから救い、死なせてやっただけである。これは「罪」であるのか。

まさに最近よく耳にする「安楽死」の問題にも通じるように感じる。

『高瀬舟』について考えるには、「QOL」という一つの概念を思考に入れるべきだと私は思う。QOLとは、一人一人の人生の質、社会での生活の質に着目するものである。

喜助と弟は、決して十分な質の生活を送ったとはいえない。いや、喜助はこれまでのその日を暮らすのに精一杯の生活に幸福を覚えていた。しかし、弟は兄一人に稼がせ、自分は食べさせてもらっているという自らの生き方に尊厳や誇りを感じられず、心苦しく思っていたことは本文を見れば明らかである。つまり、弟のQOLは低下していた。そして自殺を図ったのであるから弟が死ぬことを望んでいたのは明白である。

しかし、弟は一人で死にきれず苦しさに耐えられないからかみそりを抜いてくれと懇願した。喜助は弟の苦しむ姿を見ていられず、弟の言う通りにかみそりを抜いた。弟はQOLの向上のため、安楽死を望み、喜助はその手助けを弟に頼まれてした。

安楽死には必要とされる四つの要件がある。患者の死が避けられないものであること。患者の肉体的苦痛が耐えがたいものであること。患者の苦痛を緩和・除去する手段が他にないこと。患者本人の明確な意思表示があることの四つである。

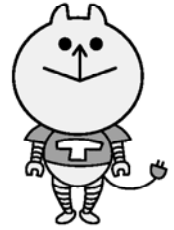
『高瀬舟』の話の場合、一つ目の条件はクリアしていることは確かである。そして、弟は自殺を図るも死にきれずに苦しんでいた。つまり二つ目の条件もクリアされている。また、喜助は一度は助けようとしたものの、おそろしい表情をし、殺してくれと急かされかみそりを抜いている。ということは、三つ目の条件もクリアされた。最後の条件は、弟が懇願しているのだからクリアされていることがわかる。

以上から、これはただの「人殺し」ではなく、苦しみから救ってやるための「安楽死」であり、人殺しには違いないが喜助は罪人であるとはいいきれないと私は考えた。だが、私がかみもし喜助の立場であったなら、弟を殺せなかったと思う。「条件」などではなく、一緒によりそって生きてきた大切な、まして血のつながった人を殺すことは理性でなく、本能でためらい、なんとしても生きていてほしいと思う。だがそれは患者を苦しめることになるのかもしれない。患者本人だけでなく、周囲の人の考えも混じったとても難しい問題なのである。

(森 鷗外『高瀬舟』)

ご存知ですか、図書館の使い方

ぜひ積極的に図書館を利用しましょう



学習のための多様な活動空間

- 専門書、一般書、小説
- 電子ジャーナル、データベース
- パソコン、プリンタ
- インターネット、校内Wi-Fi
- 広い机、ホワイトボード
- ミーティングルーム



本を借りる

- 📖 貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊で、貸出には学生証が必要です。
- 📖 返却は図書館カウンターもしくは寮のブックポストに返却してください。

Topics!



図書館ツイッターやってます。
@TsuyamaKosenLib



図書館にある本を探す

- 📖 蔵書検索（OPAC）で請求記号を調べて、その記号の書棚の場所に行きましょう。
- 📖 書棚の本は分野別に並んでいるので、興味がある分野の書棚を探してみましょう。

市立図書館の本を取り寄せる

- 📖 市立図書館蔵書検索（OPAC）で予約し、受取場所を本校に指定しましょう。



Topics!



図書館のミーティングルームには寄贈された備前焼の蘭引（らんびき）が展示されています。蘭引とは江戸時代に使用された蒸留器で、酒や水を蒸留して精製し、アルコールや蒸留水を得るための道具です。



本をリクエストする

- 📖 学生希望図書の申込用紙を図書館カウンターに提出しましょう。

論文を調べる

- 📖 図書館WEBサイト記載の電子ジャーナル・データベースを利用してみましょう。

過去の卒業研究を閲覧する

- 📖 全て図書館に所蔵しているわけではありませんが、多くの卒業研究が図書館奥の集密書架にありますので、探してみましょう。なお、一部を除き持出・複写不可です。

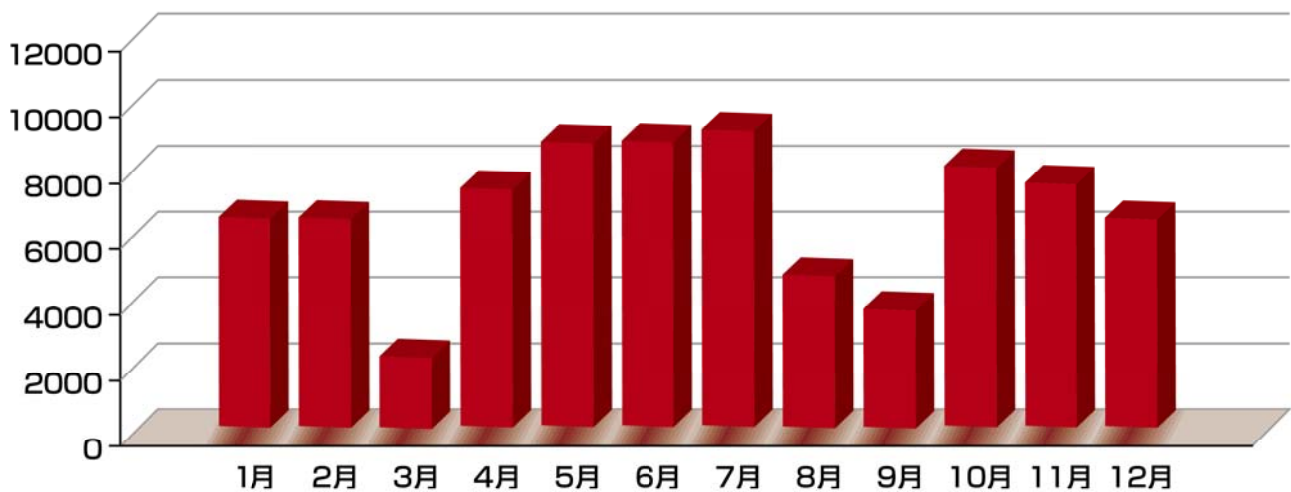
レポートを作成する

- 📖 PCは総合情報センターアカウントでログインして使用します。
- 📖 プリンタは両面印刷可能で、カラー印刷はできません。節度ある利用を心掛け、安易な大量印刷は控えましょう。
- 📖 ノートPCを図書館カウンターで貸出しています。
- 📖 校内Wi-Fiの使用は総合情報センターでの申請が必要です。

グループで学習する

- 📖 ミーティングルームが利用できます。図書館カウンターで予約、申し込めましょう。

入館者数 2017



貸出ランキング 2017

No.	書 名	著 者	出版社
1	編入数学徹底研究	桜井基晴	聖文新社
2	TOEICテスト新公式問題集	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会
3	1駅1題 新TOEIC TEST文法特急	花田徹也	朝日新聞出版
4	新TOEIC TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版
5	十三世紀のハローワーク	グレゴリウス山田	一迅社

(期間：2017年1～12月)

編集後記



今年初めて図書委員会に入って、いきなり班長になり、とても大変でした。他のメンバーにとっても迷惑をかけてしまいました。しかし、メンバーや様々な方の協力のもと無事完成できました。

恥ずかしながらこの班に関わるまでは、本館報をあまり読むことがありませんでした。本を読むことは好きなのですが、時間が無いことを理由に読書をしていませんでした。しかし、編集作業などをしていくうちに本が読みたくなり、もっといろいろな方に読んでいただきたいと思うようになりました。そのためにも、少しでも読んでいただけるように班メンバー全員で編集作業を行いました。本館報が、本をあまり読まない方にも図書館を利用するきっかけになると幸いです。

最後になりましたが、原稿依頼を快く引き受けてくださった先生方、関わっていただいた全ての方々にお礼申し上げます。

(機械工学科4年 岡部 直人)

発行

独立行政法人 国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校図書館